



野鳥の 不思議解明 最前線

#75

文 植田睦之

© Japan Bird Research Association, 2012

眠るヒドリガモ *Anas penelope*。日本の花火は夏なので、日本で越冬するカモにとって、花火は他人事？ 撮影●内田博

嬉しくないお正月

～年越し花火で迷惑しているオランダの水鳥～

明けましておめでとうございます。昨年はいろいろ大変な年でしたが、今年は良い年になるとよいですね。

さて、日本でお正月といえば、おせち料理にお雑煮。年越しといえば、年越しそばに除夜の鐘といったところでしょうか。年越しはシーンとした中に荘厳な除夜の鐘が響く落ちついた感じで迎えることが多いですが、欧米では花火をあげて派手に祝うところが多いそうです。中国も派手に爆竹で祝いますから、日本式の方が珍しいのかもしれない。

そんな年越しの花火が鳥にどんな影響を与えるのかについての論文が *Behavioural Ecology* 誌に載っていたので紹介したいと思います。

この研究が行なわれたのはオランダのアムステルダムとユトレヒトのあいだにある湖沼地帯。多くの水鳥が越冬する重要越冬地です。Shamoun-Baranes さんたちは、2007/08 から 2009/10 までの3年間、気象レーダを使って、鳥の動きを 12/30 ~ 1/2 までのあいだモニターし、花火の際の水鳥たちの反応を調べました。

すると、通常の日には朝夕に鳥の動きが活発になるのですが、年越しの日だけは状況が異なり、新年を迎えた直後から 45 分程度、数百数千の水鳥たちが湖沼や草原の上を飛び交うのがわかりました。おそらく休息したり採食したりしていた水鳥が、花火に驚いて飛び立ったものと思われます。さらに、通常、鳥たちが飛ぶ高度は 100 m 以下がほとんどなのに、

年明けの飛行は飛ぶ高度が高く、通常はほとんど飛ばない地上から 500 m の高さを含む広い範囲の高度を飛んでいることがわかりました。鳥たちは花火でかなり驚いているようです。

このように、花火は、ほかの攪乱と比べても鳥たちに大きな影響を与えていそうです。しかし、この攪乱は生存にまで影響を与えるようなものなのでしょうか？ それともほかの攪乱よりもちょっと驚きが大きい程度のものでしょうか？ そのあたりはこの研究ではわかりません。しかし、レーダに映る鳥の活動のパターンを見てみると、花火に夜を乱された翌昼の 1 月 1 日の昼の活動は普段とは異なっていて、通常の日には鳥の動きが見られる日中から夕方にかけての時間帯も、ほとんど動きが見られません。睡眠不足などで行動に影響がでているのか、それとも一時的にその場所を回避するようになるのかは、わかりませんが、単に驚くだけでなく、その後の生活にも影響がでているようです。レーダだけでなく、目視観察を併用することで、このあたりのことを明らかにすることができれば、どのように、そしてどの程度花火が鳥たちに影響を与えているのかが見えてくるのではないかと思います。

紹介した論文

Shamoun-Baranes, J., Dokter, A.M., van Gasteren, H., van Loon, E.E., Leijnse, H., & Bouten, W. (2011). Birds flee en mass from New Year's Eve fireworks. *Behavioral Ecology* 22: 1173-1177. doi:10.1093/beheco/arr102